

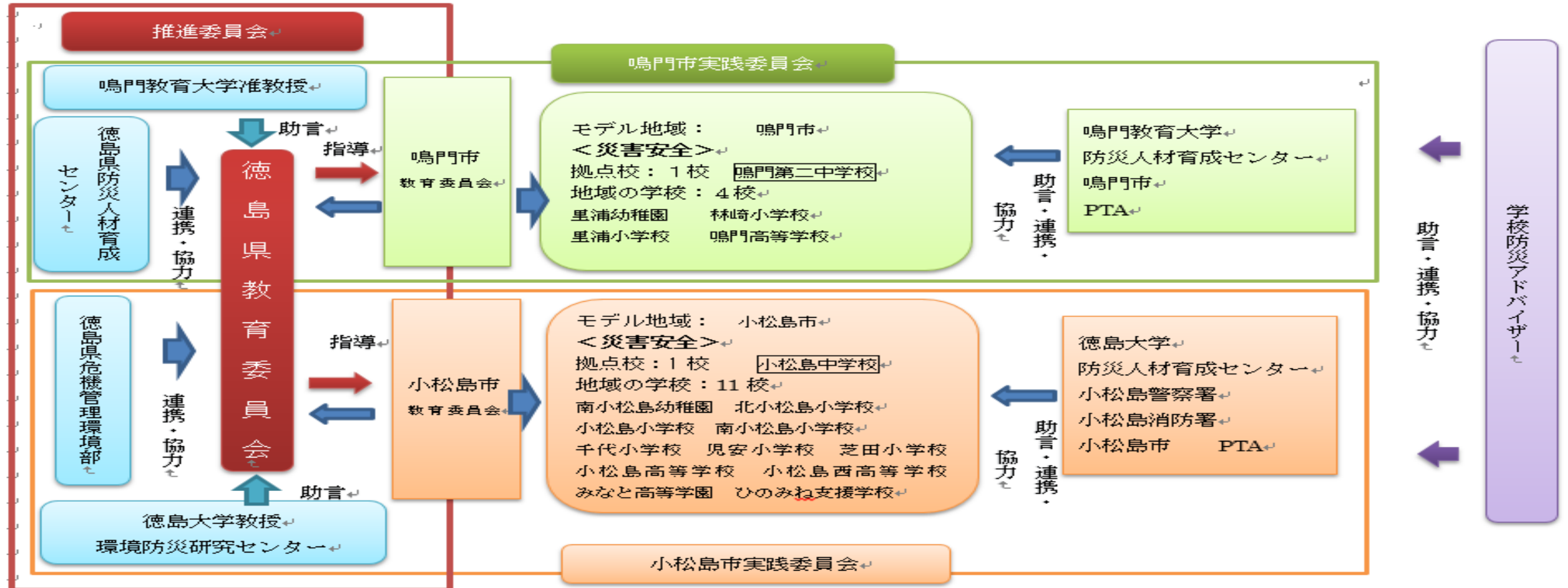
家庭や地域とともに取り組む防災教育

～フェーズ・フリーを学校教育に取り入れて～



徳島県 鳴門市教育委員会
学校教育課 主査(指導主事)
佐古 高伸

令和2年度 徳島県学校安全総合支援事業の概要



- 成果の普及
- 成果発表会（あわ教育発表会，学校防災に関する研修会）の開催
 - 拠点校における公開授業（オープンスクール）等の開催
 - 各実践委員会でモデル地域の学校の管理職と中核となる教員へ成果の普及
 - 県下各校へ成果物の配付，研修会・市町村校長会での事業成果の周知

鳴門市の現状

人口 約55000人

○海に面しており、漁業が盛ん

○文化が身近で多くの観光名所

- ・鳴門の渦潮 ・第九 ・大塚国際美術館
- ・鳴門金時 ・阿波踊り ・徳島ラーメン

○四国の玄関口



鳴門市の現状

鳴門市 南海トラフ地震の想定
(被害最大の場合)

震度：震度6強～震度7

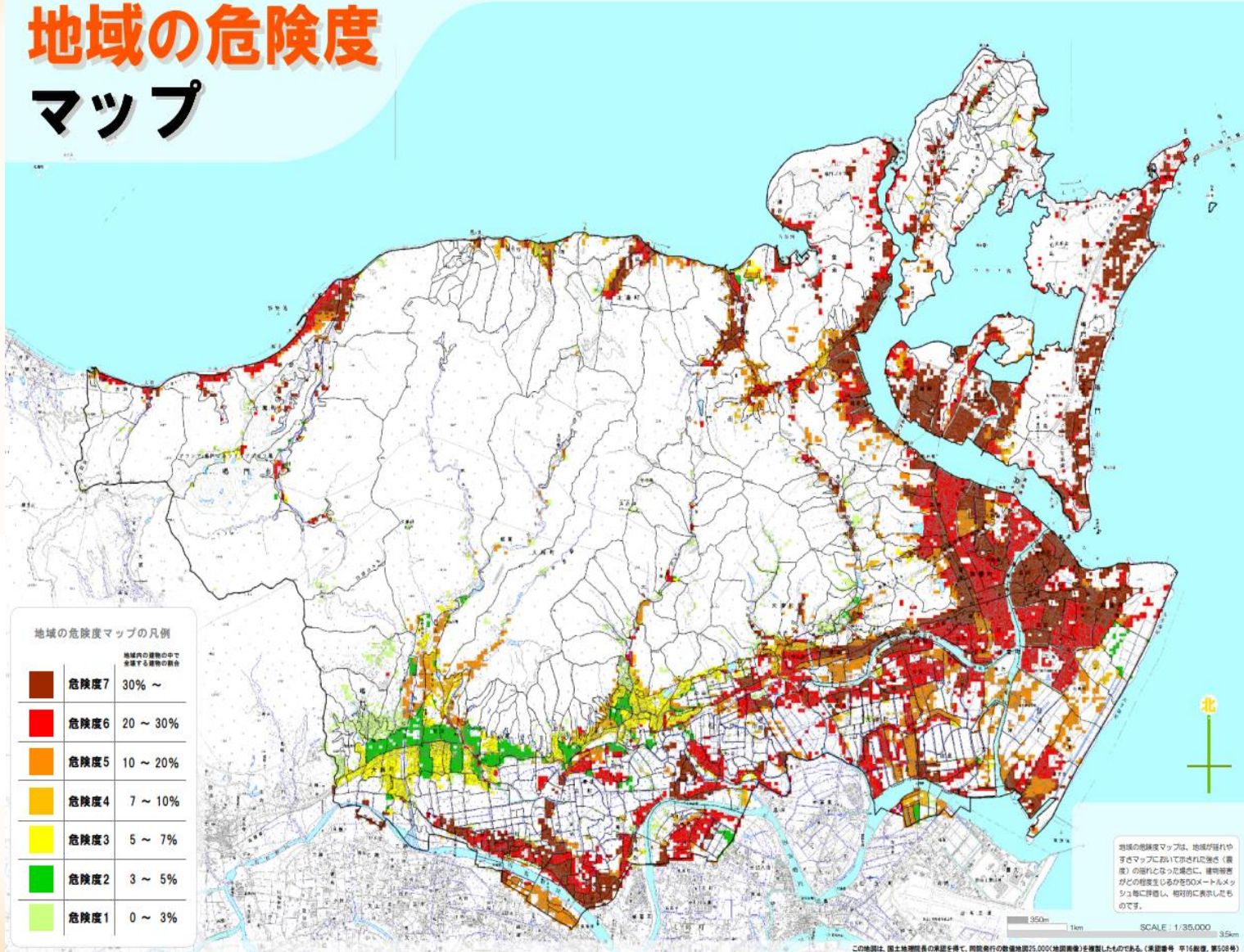
死者数：2700人(約5%)

建物全壊棟数：11900棟(約50%)

津波：最大波6m(到達時間64分)
津波第一波20cm 到達時間48分
里浦海岸

鳴門市地域防災計画より抜粋

地域の危険度 マップ



～大切な命を守るために～

鳴門市 × フェーズフリー

市 では、防災計画を行っていく上で最も基本となる「鳴門市地域防災計画」の中に、全国に先駆けて「フェーズフリー」の研究・啓発を盛り込みました。これまでも、避難所の整備や食料品の備蓄、地域での防災訓練など、市民の皆さんと共に「防災のための施策」に数多く取り組んできました。しかし、限られた予算の範囲で防災のみの特化した施策を推進していくには限界があります。一方で、福祉や教育などさまざまな施策を推進する中で、同時に災害時にも対応できる状態をつくることができれば、日々の生活の質を向上させながら、皆さんの大切な命を守ることもつながります。それが、今後市が進めようとするフェーズフリー施策です。

フェーズフリーが実現する未来

皆さんが日頃利用する施設や公園、市が提供するサービスなど、日常の中に溶け込んでいるものが自然と市民の皆さんを守っている。これが、市が描く理想の未来です。市では、今後整備を行う市庁舎などの施設や教育分野においてもこの考えを導入し、市民の皆さんの命を守る取り組みを進めていきます。

施設

「鳴門市新庁舎建設基本計画」にフェーズフリーの考えを盛り込み、災害時の各フェーズにおける機能整備について検討することとしています。また、浄水場、道の駅など今後建設が予定される公共施設にもフェーズフリーの考えを取り入れる予定としています。

例えば…

「新庁舎内に相談室や授乳室を適切に設けることで、来庁者や市職員の利便性を向上させる一方、災害発生時には休憩室などとしても活用できる」など、平常時から来庁者や市職員などの利用環境を向上させ、災害時には防災拠点としての機能を高められるよう検討を行います。



イベント

市が主催するイベントなどで、フェーズフリー紹介ブースを設けるなど、市民の皆さんへの周知・啓発に努め、フェーズフリーの浸透を図ります。また、地域団体などと連携し、子どもたちにも普段から災害への備えを身に付けてもらえるような取り組みを進めます。

例えば…

地域活性化団体MOVEが主催する「イザ！カエルキャラバン」は、子どもたちが遊びの延長で楽しみながら防災の知識を身に付けることができるイベント。体験に参加して貯めたポイントは好きなおもちゃと交換することができます。防災を意識しない遊びの中で知識を深めることができます。



令和元年11月号 広報 なんと 4

教育

普段の授業にフェーズフリーの考えを導入します。例えば、体育の持久走で津波到達予想時間と同じ時間で自分がどれくらいの距離を走れるか体感する、外国語の授業で避難を呼び掛ける言葉を学習するなどの取り組みを行います。これらを通じ、児童・生徒が無意識のうちに災害時に備えた感覚を身に付けられる状態を目指します。

算数の問題では…

Q 津波は、陸地に上陸したとき時速36kmで進むといわれています。この津波が追いかけてきたら、50mを何秒の速さで逃げる必要がありますか？

A 時速36km→1分で600m→1秒10mの速さで津波が追いかけてくる。つまり、50mを5秒以内のスピードで走ることができないと、津波から逃げるができない。

小学5年生の50m走平均タイムが約9秒。

「津波はとても速い！」

ということを感じてもらうことで、もしものときがイメージできるようになるとともに、早めの避難の必要性を普段から意識付ける。

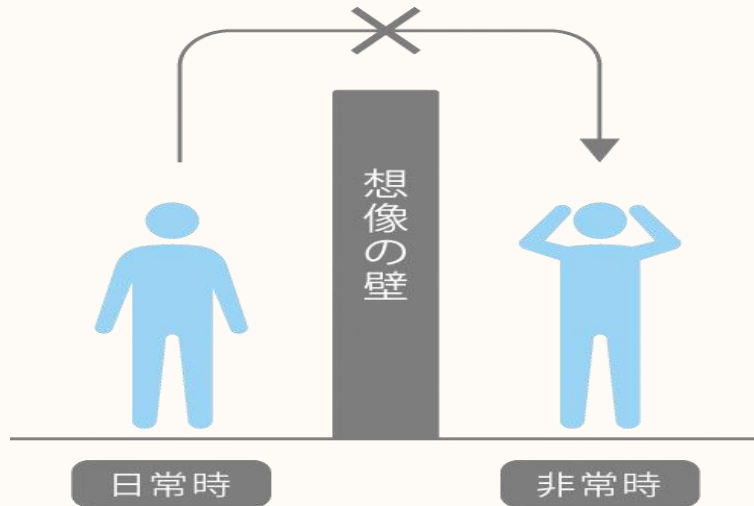


鳴門市×防災×フェーズフリー

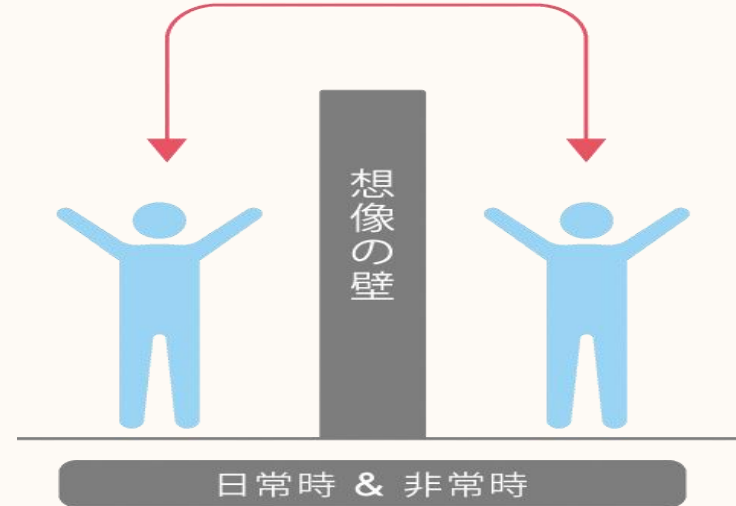
フェーズフリーとは

「日常時」と「非常時」という
2つのフェーズからフリーになってみる

非常時をイメージできないから
いざという時に守れない



非常時をイメージできなくても
フェーズフリーで守られる



FASE FREE CONCEPT&GUIDE BOOK for Schoolより

鳴門市 × 防災 × フェーズフリー

鳴門市幼稚園・小中学校の防災教育の取り組み方

家庭・地域・自主防災会との
連携等に重点を置く実践

- ・これまでの防災教育を基板上に
- ・家庭・地域・自主防災会との連携
学校 ↔ 自主防災会・地域

フェーズフリー

- 日常の取組が、非常時にも役立つ
- 授業に
 - 休み時間に
 - 給食時に
 - 意識として

主体的な姿勢で防災と向き合い、家庭や地域
とともに自分の命を自分で守る子どもの育成

本日の発表内容

家庭や地域との連携等に重点を置いた

フェーズフリー

- I 令和2年度
学校安全総合支援事業の取組から
 - 1 拠点校鳴門市第二中学校の実践
 - 2 鳴門市教育委員会の取組
- II 令和3年度 鳴門市教育委員会の取組



I 令和2年度学校安全総合支援事業

1 鳴門市第二中学校の取組

防災学習 「助けられる人」から「助ける人」へ ～避難所運営訓練を通じた実践より～



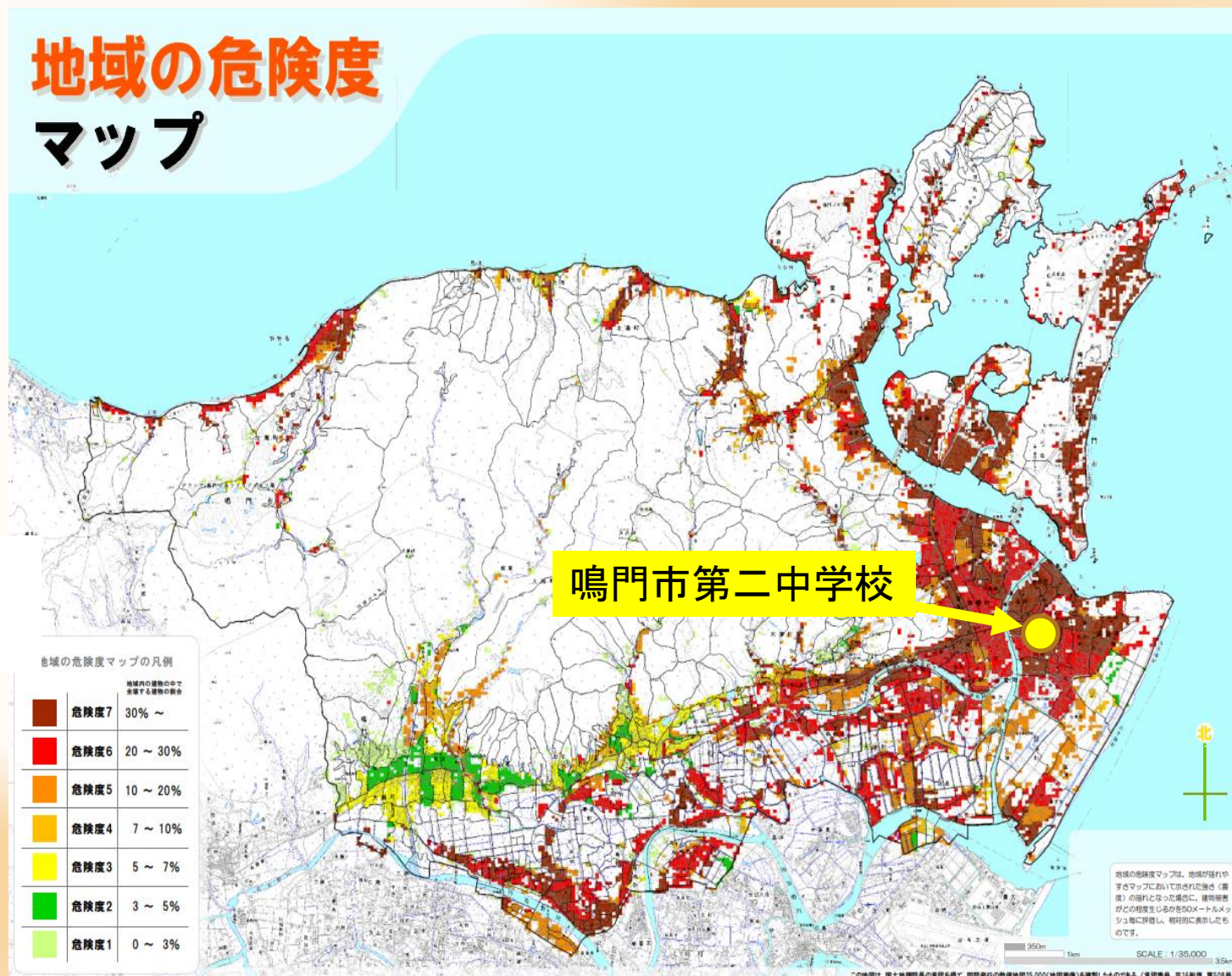
1 鳴門市第二中学校の概要
(令和2年度)

中学校は生徒数218名、
教員数19名の中規模校

○鳴門市第二中敷地内(想定)
津波浸水深3.0m-5.0m

○鳴門市第二中学校は土砂
災害警戒区域(急傾斜地)に指定

地域の危険度
マップ



鳴門市第二中学校または校区の現状

地域内の学校 小学校2校(林崎小・里浦小)
 幼稚園2園(精華幼・里浦幼)
 高等学校1校(鳴門高校)

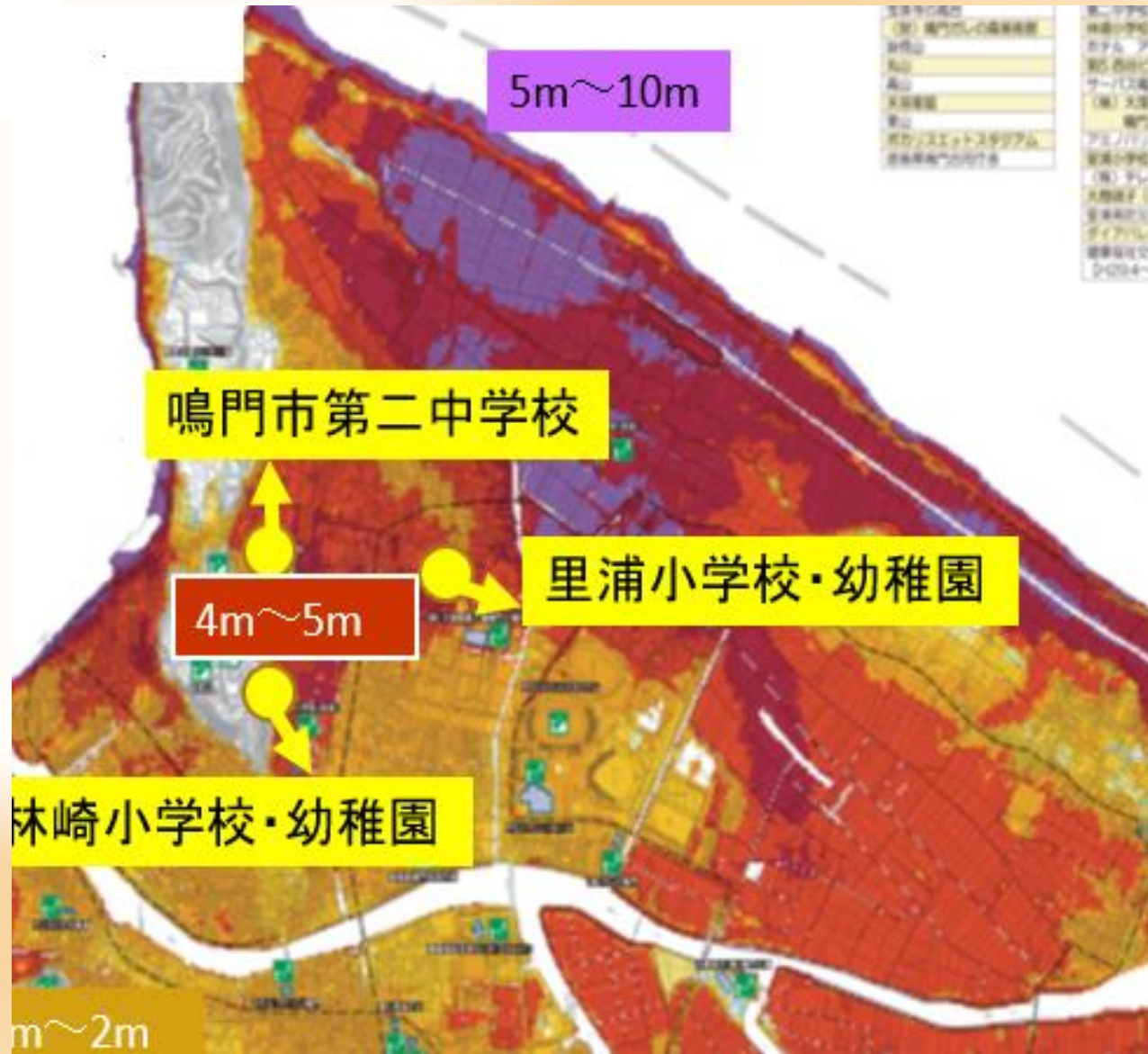
南海トラフ地震想定

震度 : 震度6強～震度7

鳴門市第二中校区内(想定)
津波浸水深0.3m-10.0m

課題

- ・自主防災会と学校との連携
- ・自主防災会の方々の固定化と高齢化
- ・地域防止力の強化と、防災の担い手となる人材育成



2 事業の目標

- ・地元における自然災害のリスクと正しい知識を知り、災害が発生した際には**生徒自身が主体的に適切な避難方法**がとれるようにする。
- ・生徒自身が、**自発的に**要配慮者等の避難の手助けに取り組み、被災後の避難所運営に**協力し**、災害ボランティアに取り組む意欲や態度の育成を図り、**防災の担い手としての実践力**の向上を図る。
- ・**「防災クラブ」の活用**を図り、地域を拠点とした自主的な防災活動をすすめる体制づくりを推進する。
- ・モデル地域内の学校に、学校安全の中核となる教員を配置し、その教員を核として拠点校の取組をモデル地域、さらには**鳴門市内での共有**を図り、各学校の実態に合わせ、**市内全域の学校安全の取組**を推進する。

3 実践の概要

6/18 オリエンテーション

7/2・3 アンケート調査(全学年)

7/10 地域防災マップによる避難経路確認
防災器具点検

7/30 学校防災アドバイザーによる講演

9/4 二中文化祭 防災展示 防災クイズ

9/11 二中が避難所になったら? ~「避難所レイアウト・二中編」を考えよう~

9/18 避難訓練

10/23 テント・簡易トイレ設営訓練

10/30 防災受付ゲーム実施(11/2)

11/5 簡易段ボールベッド組み立て講習

11/13 避難所運営訓練

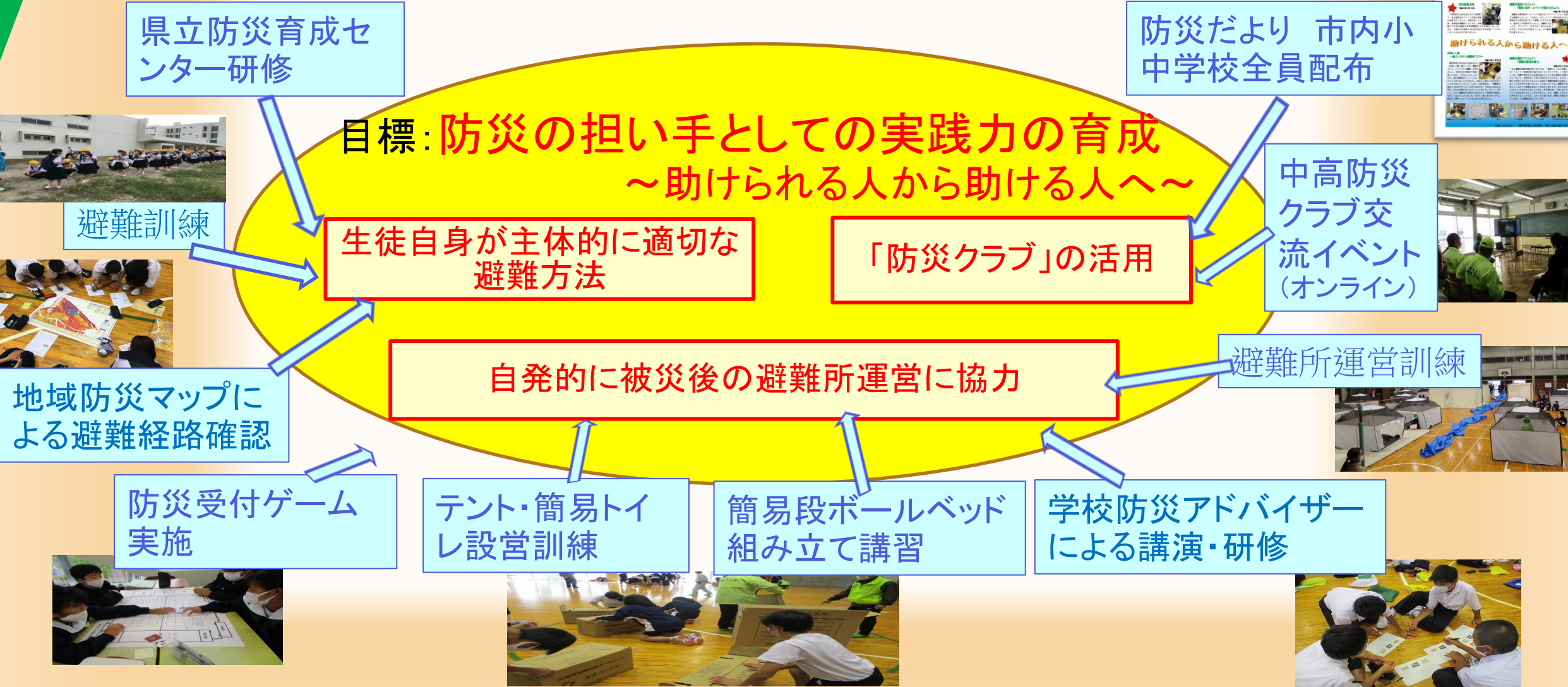
11/19 県立防災育成センター研修

12/25 中高防災クラブ交流イベント(オンライン)

1月 防災だより 市内小中学校全員配布
避難訓練
小中合同防災学習(林崎小・里浦小)

3月 避難訓練

鳴門市第二中の実践の概要とその目標



4 取組の具体的内容紹介

避難経路確認



自宅から避難場所までの経路や時間，危険箇所などをシールを使ってマーキング

防災器具点検

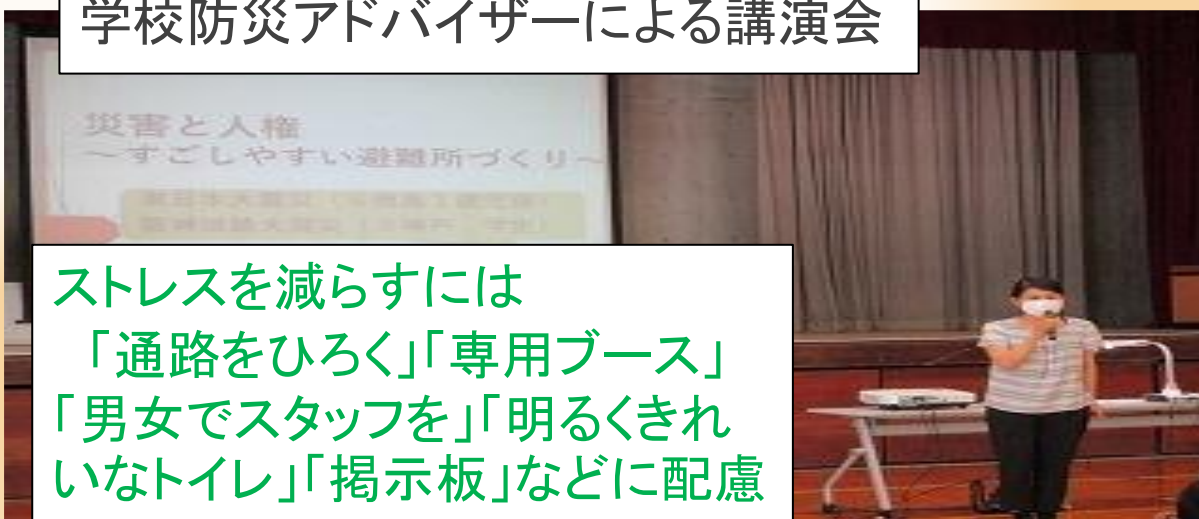


(3) 9月

避難訓練



学校防災アドバイザーによる講演会



ストレスを減らすには
「通路をひろく」「専用ブース」
「男女でスタッフを」「明るくきれいなトイレ」「掲示板」などに配慮

10月・11月避難所運営訓練の準備

テント設営や簡易トイレ・パーテーション組み立て



段ボールベッドの組み立て



防災受付ゲーム実施



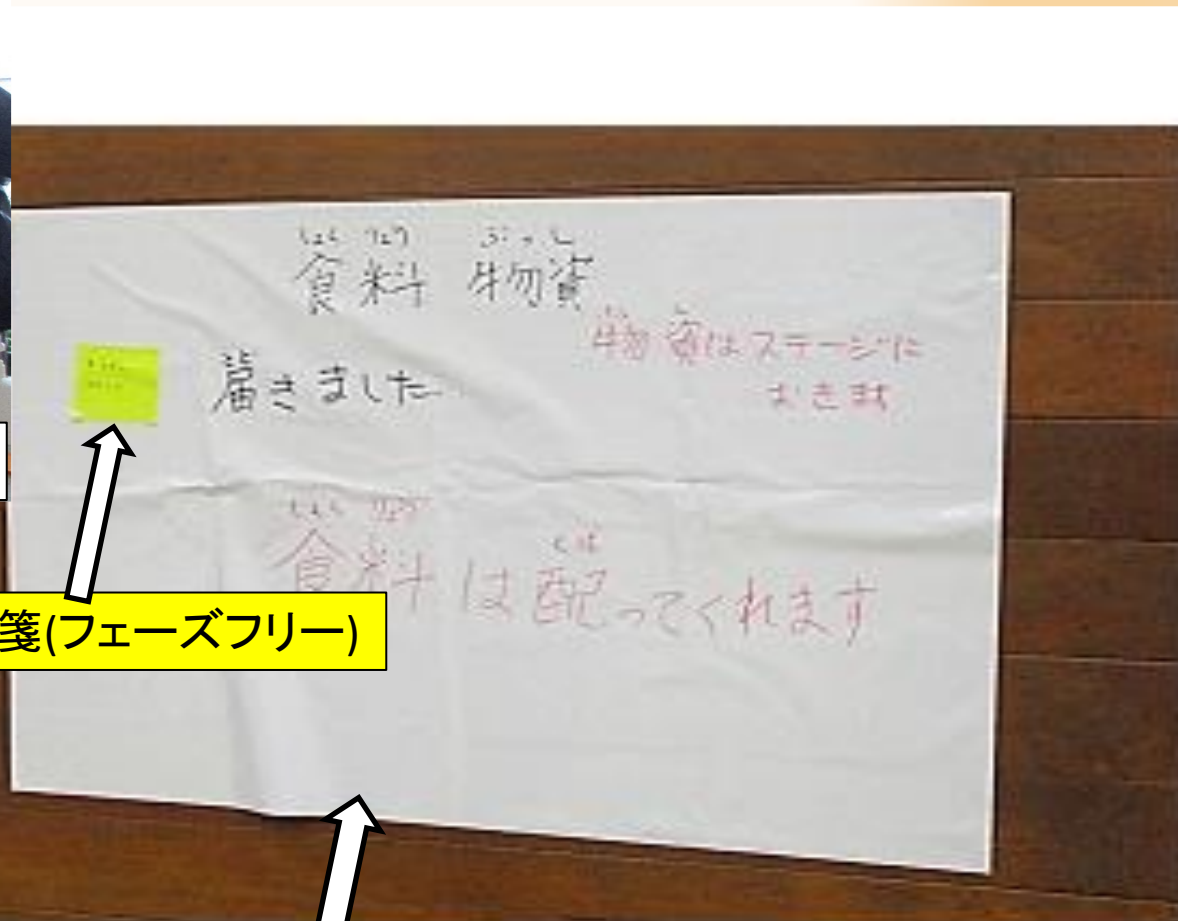
1 1 / 1 3 避難所運営訓練



11/13 避難所運営訓練



新型コロナウイルス感染症対策に対応した受付



水に強い付箋(フェーズフリー)

静電気でどこでも貼れるホワイトシート(フェーズフリー)

(8) 11/19 県立防災育成センター研修



長谷川主事のワークショップ

(9) 12/25 中高防災クラブ交流イベント(オンライン)



(10) その他 防災バックの製作



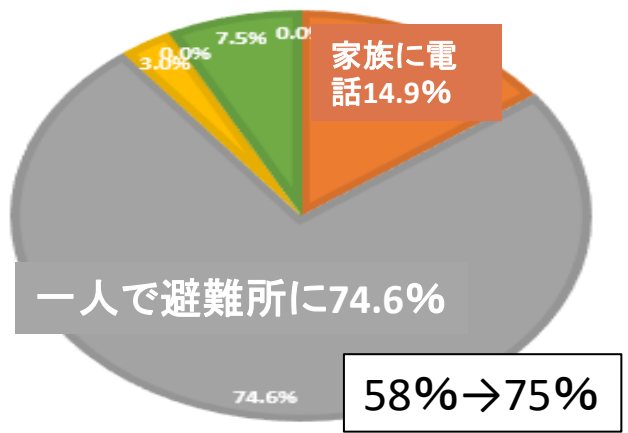
施設内体験ツアー



地震・津波についてのアンケート 鳴門市第二中学校(1年) 7月・1月実施

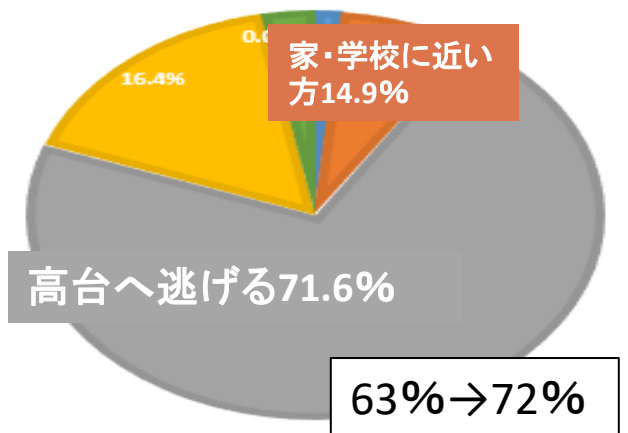
1:家で一人の時に大地震が起こったら

- 家で待つ
- 家族に電話
- 一人で避難所に
- 隣人に助けを
- わからない
- その他・無回答



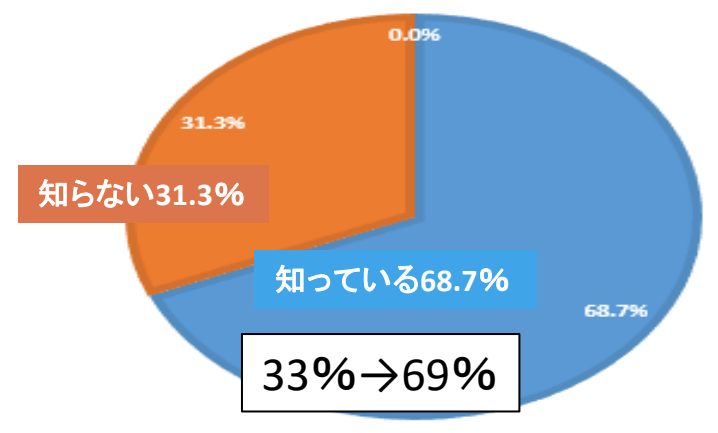
2:学校の帰り道で大地震が起こったら

- 急いで家に
- 家・学校の近い方
- 高台に逃げる
- 広い所に逃げる
- わからない
- その他・無回答



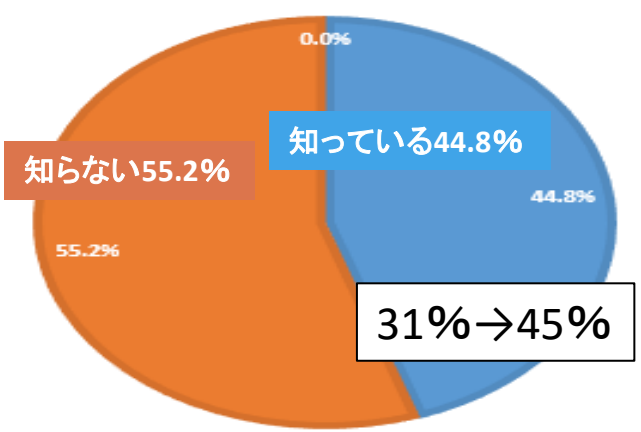
3:学校の津波想定について

- 知っている
- 知らない
- 無回答



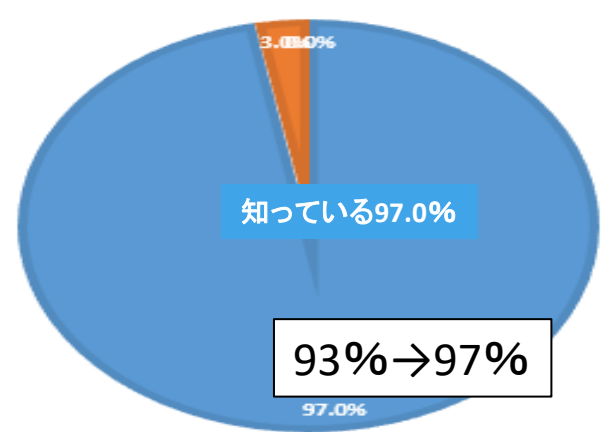
4:家の場所の津波想定について

- 知っている
- 知らない
- 無回答



5:家の近くの避難場所について

- 知っている
- 知らない
- 無回答



成果

- 学校が地域や自主防災会とともに活動
- 学校が地域の防災教育の拠点
- 「防災クラブ」の活動に1年生全員が参加
- 防災についての正しい知識が身につく
- 学校と関係機関との連携の強化
- 防災だよりやカレンダー等で地域に発信
- フェーズフリーの学校教育導入へのきっかけ

生徒が体験で得たもの

近い将来の防災の担い手

ナルニ 防災だより 鳴門市第二中学校

2021年1月1日発行

鳴門市第二中学校では、地震や津波などの災害に備えて、日頃から防災学習を行っています。毎年、小学校、川東地区・重南地区自主防災会や婦人会の方や大塚製薬工場の方、鳴門教育大学や徳島大学の先生方、鳴門市役所危機管理課の方等と協働し、地域ぐるみで取り組んでいます。本年度は、「助けられる人から助ける人へ」を合い言葉に、中学1年生が避難所運営について体験学習をしました。

防災オリエンテーション
～新聞タワーをつくらう～
令和2年6月19日

防災学習で、南海トラフ巨大地震が起きたとき、横からは助けられる人から助ける人になりたいと思います。災害が起きたとき、必要な力は3つです。1つ目は、思考力です。新聞タワーでどうすれば高くなるか、どうすれば安定した土台になるか、を考えました。2つ目は、自分で考えて行動する力です。行動し、実践しないと何も始まらないからです。3つ目は、みんなと協力することです。みんなと協力しないと高くできない、みんな困ります。災害が起きてもみんなで助け合って生きることが第一だと考えました。

避難所運営プロジェクト
「テント設置しよう」
令和2年10月23日

テントを建てるときは、チームワークが大切ということ学びました。チームで作業をしている自分一人ではできないこともできました。また、「こっちは僕だ」「これ押さえとって」など声かけが協力をすることや作業の効率もよくなくなりました。他に、テントには、いろんな種類があることやつなげて大きな部屋(スペース)をつくることも可能になることも知りました。これを本場に災害が起きたときに、どう生かすことができるかを考えることが僕の次の課題だと思いました。

避難所運営プロジェクト
「備品・段ボールベットを組み立てよう」
令和2年11月5日

避難所の備品段ボールベットの組み立てやパーテーションを設置する練習をしました。この日は、王子コンテナ株式会社の方と川東地区自主防災会の方に指導いただきながら、組み立てや配置を行いました。避難所であっても、プライバシーが守られ、夜やを休ませることのできる空間をつくることの重要性を感じました。

災害と人権
～過ごしやすい避難所づくり～
令和2年7月30日

鳴門教育大学の谷村千絵先生より「災害と人権～過ごしやすい避難所づくり～」についてご講演いただきました。谷村先生の言葉で印象に残ったのは、「がまんしないこと」です。僕の避難所のイメージは、ストレスがたまってもがまんし、他の人に気をつかわないことだと思っていました。しかし、谷村先生は、「避難所に居るとそれだけでストレスがたまると、それ以上がまんせずに、みんなで助け合おうとおっしゃいました。そして、そういうことを「避難所の全員が心がける」といって避難所の場所になる」とおっしゃいました。だから、やらせせずに、自分から関わっていくことの大切さを知りました。

避難所運営プロジェクト
「避難所運営体験1」
令和2年11月13日

私が避難所運営体験で学んだことは、「事前にしっかり計画しておくこと」と「仲間全員で協力すること」の2つです。1つについては、地震や津波などの災害が起きたときに何も準備や計画ができていないと、余裕がなくて周りが見れなくなります。なので、冷静にお手伝いなどができるように日頃から避難所運営の計画をしておくことは大切だと思いました。2つについては、避難所で全く考えていなかった要望が来ることもあると思います。自分ではどうしたいのかわからないことでも、声を掛け合い、話し合うことでよい方法を見つけることができました。また、避難してきた人にも声をかけることができ、よかったです。実際に災害があったときは、この経験を生かしたいと思います。

お問い合わせ先 鳴門市第二中学校 TEL:088-685-7911

市内各家庭に配布した「防災だより」



「地域の拠点としての自主的な防災活動を進める体制づくり ~地域の防災について学び、地域防災の担い手に~」



2021(令和3年)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

市内各家庭に配布した「防災カレンダー」

課題

- 地域の実情から、各関係機関との連携の継続が必要
- 「主体的な活動」を学校の防災教育の柱として位置づけ
- 学校が地域防災の拠点としてさらなる発展
(全体をコーディネートできるよう発展)
- イベントだけではなく、日常から防災に触れる取組
→ フェーズフリーの概念を取り入れた教育が必要

I 令和2年度学校安全総合支援事業

2 鳴門市教育委員会の取組



令和2年度の取組重点項目

(1)防災教育の充実

- ①自分で考え、率先避難できる子どもの育成
- ②家庭において防災や災害避難についての話し合いの必要性
- ③地域の実態に即した教材の作成
- ④フェーズフリーの学校教育への導入

(2) 自主防災会と連携した避難所運営支援計画についての協議と教職員間の共通理解

(3) 自主防災会・地域と連携した避難訓練の実施

鳴門市教育委員会としての防災教育の取り組み方

家庭・地域・自主防災会との連携等に重点を置く実践

- マニュアルの作成・徹底
- 家庭・地域・自主防災会との連携
- 学校⇄自主防災会

フェーズフリーの学校教育への導入

- 授業に
- 休み時間に
- 給食時に
- 意識として

防災へ両面からのアプローチ

重点項目に対応した取組

(1) 「防災教育の充実」の取組 ②

「防災クリアファイル」

地震・津波への備え①

緊急地震速報を聞いたり、強い揺れを感じたりしたら

屋内

家でいるとき

- 机などの下に入る。(座布団などで頭を守る)
- 素足では歩かない。
- 出口を確保する。(火の始末は揺れが収まってから)

お店にいるとき

- 持ち物で頭を守る。
- ガラスや倒れそうなものそばから離れる。

学校など

- 机などの下に入る。(座布団などで頭を守る)
- ロッカーや棚などの倒れそうなもの落ちてくるものに注意する。

屋外

道など

- 持ち物で頭を守る。
- 落ちてきそうなものそばから離れる。
- 自転車は安全な場所に停めてしゃがむ。

バスや鉄道の中

- 手すりやシートに両手でしっかりとつかまる。
- 揺れが収まるまで外に出ようとしな

自動車の中

- あわててスピードを落とさない。
- 大きな揺れを感じたら、道路の左側に停める。
- 揺れが収まるまで車の中にいる。

マンションなど

- 机などの下に入る。(座布団などで頭を守る)
- 出口を確保する。
- 階段を使って避難する。

海や川の近く

- 水辺からすぐに離れて安全な場所へ避難する。
- 車での避難はできるだけしない。

「津波てんでんこ」の教え

「津波てんでんこ」とは、津波の被害を何度も受けてきた三陸地方の人びとの「命を守る知恵」で、津波から助かるには一人ひとりがてんでんこ（てんでばらばら）に逃げろ、という意味です。

「他人を置き去りにしてでも逃げろ」ではなく、あらかじめお互いの行動をきちんと話し合っておくことで、離れ離れになった家族を探したり、とっさの判断に迷ったりして逃げ遅れるのを防ぐことができます。

北海道南西沖地震（1993年）の奥尻島の津波では、手をつないで避難していた母子3人が、祖母がすでに避難していたの知らずに途中で祖母の家に立ち寄ったために、わずかな時間差で命を落としてしまうという悲劇がありました。

わたしたちは、そのような痛ましい悲劇を二度と繰り返すことのないよう、家族で話し合うなどして、「津波てんでんこ」が実行できるように準備しておかなければなりません。

この言葉には「自分の命は自分で守る」ことだけでなく、「備えを確かにすることで、自分たちの家族や地域は自分たちで守る」という

市内全小中学生に配布

鳴門市教育委員会

中学校区ごとの「地震・津波避難マップ」



市内全小中学生に配布

私たちの専ら鳴門市では、南海トラフ地震が起こった場合に、最大で6mの津波が64分後（太平洋岸）に来ることが想定されています。（※第1波は0.2m、48分後）

子どもたちとご家族の命を守るためにも、当マップを用いて自宅からの避難場所、経路についてご確認ください。

★わが家の防災避難マップを作ろう！

わが家から、近くにある避難場所まで、できるだけ安全に避難できる道順を決めよう。

地図ができたら、実際に家族と歩いてみよう。安全な道順については、山や崖、狭い道、ブロック塀、瓦屋根が張り出した所、大木、電線、川、橋などをできるだけ避けたほうが安全といえます。

※避難場所がすぐ近の場合は、車で両側だけでも構いません。避難場所までの道順が必要ない場合は、近くの広く安全な場所などを確認しておきましょう。

「FCPマニュアル 家族継続計画」

家族で災害時の避難について話し合い、下記の個別プランにそれぞれの必要なことを記入し、いつも持ち歩いているカバンなどに入れておきましょう。

FCPマニュアル 家族継続計画

～わが家の防災マニュアル～

名前: _____ 血液型: _____

災害用伝言ダイヤルの使い方

1. 災害用伝言ダイヤル(171)をプッシュする。携帯電話や公衆電話でもOK。
2. 録音の開始(1)をプッシュする。再生の開始(2)をプッシュする。
3. 録音終了(3)をプッシュする。録音は「自分の電話番号」も、録音終了(3)をプッシュする。
4. 録音終了(3)をプッシュする。録音は「自分の電話番号」も、録音終了(3)をプッシュする。

災害用伝言ダイヤルの録音手順

録音する時にあわてないよう、あらかじめ録音を視聴しておく。

録音・友人の連絡先 (三日連絡先)

録音してあわてないよう、録音のやりかたを事前に家族で確認しておく。

1	171	録音の開始	録音
2	1	再生の開始	録音
3	3	録音終了	録音

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方

録音する時にあわてないよう、あらかじめ録音を視聴しておく。

録音・友人の連絡先 (三日連絡先)

録音してあわてないよう、録音のやりかたを事前に家族で確認しておく。

市内全中学生に配布

(2) 「自主防災会と連携した避難所運営支援計画についての協議と教職員間の共通理解」の取組

(3) 自主防災会・地域と連携した避難訓練の実施



鳴門市学校防災推進会議第1回実務者部会
(R2.7月13日)



鳴門市学校防災推進会議第2回実務者部会
(中学校区ごとに開催 R2.8月19日～9月25日)



地域や自主防災会と連携した避難訓練

(1)防災教育の充実の取組 ④

フェーズフリーの学校教育への導入

「フェーズフリー」の学校教育への導入までの主な流れ

平成30年5月 ○第12回鳴門市学校防災推進会議(市内全幼・小・中の園校長が参加)でフェーズフリーの説明を行う(危機管理課)。

令和2年1月 ○学校防災推進会議第3回実務者部会「フェーズフリー」の具体的導入について研修(実務担当者実践報告を依頼)

令和2年1月末 ○第15回鳴門市防災推進会議で、「フェーズフリー」の学校教育導入への理解と協力を求める。また「鳴門市学校防災推進計画」を改訂し、計画に位置づける。

令和2年12月 学校防災推進会議 第3回実務者部会



講師 文部科学省安全教育調査官 森本晋也先生「震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ、フェーズフリーの学校教育への導入について」

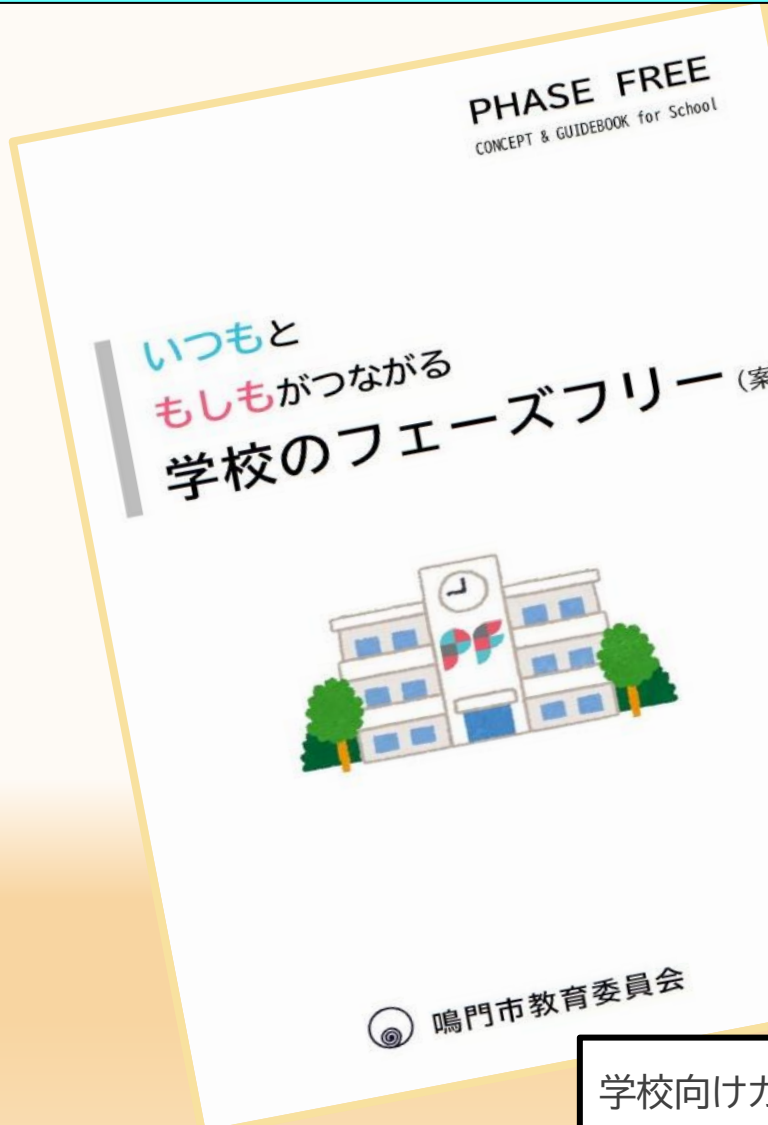
令和2年度

○令和2年度内に、市内全幼稚園・小中学校へ訪問し、全教職員を対象としたフェーズフリー研修を実施。

令和3年度 学校安全総合支援事業

全国成果発表会(鳴門市教育委員会)

フェーズフリーの学校教育への導入



学校×フェーズフリー

体育・保健のフェーズフリー

体力を高める運動 <02>

○様々な運動を通して体力づくりに取り組むとともに、日頃から自分の体力を知る。

○体幹やバランス感覚を養い、俊敏性を向上させる。

■避難行動に必要な運動能力を培う。

行進・集合・整列・集団行動 <02>

○集合・整列等の基本動作を素早く・静かに行うことを意識し身につける。

■発災時や緊急時に教師の注意や指示が通やすくなり、パニックにならず、より安全に避難行動をとることもつながる。

ボールゲーム バドミントン等 <02>

○ルールを守り、チームで協力するなどしながら、五感を使って状況判断しプレーする。

■危険を察知し回避行動をとることが発災時に求められることに関連付けて指導を行うことで、災害時の危険回避行動につながる。

持久走 [薬間 (休み時間) マラソン] ※兼教「通学」「時刻と時間」等 <02>

○走力・持久力の向上を図る。

■学校から近隣の避難場所までの到達までの時間等を目標に設定し、長距離走の必然性と意欲を喚起する。

■避難に必要な体力や距離を養う。

心の発達 (保健) <02~05>

○思春期などの心の働きや成長についての理解を深める。

■自分の心の働きについて自覚する。

■被災時や避難所生活等での心情を想像することを通して、心の不安定さへの理解を深め、対応方法を知る。

けがの手当 (保健)

○けがの手当の必要性や応急処置の仕方について、多しいけがの種類等について学ぶ。

○けがの種類別の手当の仕方について学ぶ。

■その場に治療薬や包帯などが十分でない時でも応急処置ができるようになる。



つながるフェーズフリー

毎年のように大きな災害を...
 ハザードマップを用いた授業のように、防災に特化した教育は必要です。しかし、それだけでは、やはり防災は私たちの中で「特別」なことであり続け、結局備え続けることは難しく、結果として子どもたちを守れないことになりかねません。

私たちに必要なのは、防災を「特別」なこととしない考え方なので、フェーズフリーの最大の魅力は、非常時のみ役立つ「特別」なものではないということです。教員がフェーズフリーを理解し、毎日の教育活動に防災のエッセンスを取り入れることで、教科の授業や活動をより子どもの生活に即したものとし、同時に災害に対応する力や必要となる判断力等を身につけるため、今では日常的に使われる「エコ」や「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」も、昔前には聞き慣れない言葉でした。しかし、現在ではすっかり市民権を得た言葉、概念となっています。この「フェーズフリー」も、数年後にはそのような言葉と同じように使われ、社会に浸透していることでしょう。

幼稚園入園から中学校卒業までの11年間を通して、防災を「特別」なこととしないフェーズフリーによる日々の取り組みを積み重ね、子どもたちの学力向上と生きぬく力、主体的に防災に対する姿勢を育成していきましょう。

**第1回フェーズフリーアワード
事業部門 ゴールド賞 受賞**

学校向けガイドブック「いつももしもがつながる 学校のフェーズフリー」

「いつもともしもがつながる 学校のフェーズフリー」より抜粋

フェーズフリーを学校教育へ取り入れる利点

フェーズフリーを学校教育に取り入れる利点

学力向上の視点

- 学習・活動内容を「わがこと」と感じ、量感や自らの感覚等を伴いながら、必要感をもって学習・活動することにつなげることができ、「主体的・対話的で深い学び」につながる手法の一つとなります。
- 非常時の生活や命の視点などを学習に取り入れることで、教科教育を子どもにとってより身近なものとし、単元目標を達成させたり、より意欲的に学習に取り組ませたりすることができます。

災害対応力向上の視点

- フェーズフリーは「日常」の学校生活にも役に立つものであるため、続けることができます。
- 教員が、子どもたちの「健康状態」や「個別の学習習熟度」などを配慮して授業に生かすことは、ごく当たり前のことといえます。その要素の一つに非常時に役立つ要素を加えることで、日々の学校生活の中で子どもたちの防災についての意識を高めたり、役立つスキルを身につけさせたりすることができます。
- 普段の授業の中で、非常時に役立つ内容を織り込み、取り組むことが可能であるため、余分な授業時数を必要としません。
- 学校生活の全ての時間（授業・朝の会・掃除・給食・休み時間等）において取り入れることができ、衣・食・住等の生活全般にわたる、非常時に役立つスキルの習得へとつなげることができます。

学力 学習・活動により「必要感・具体性」
→より身近で主体的に

防災 日常に事前と防災についての意識
やスキルの向上

両面での効果

(例)算数・数学のフェーズフリー

学校×フェーズフリー

算数・数学のフェーズフリー

おなじかずずつ・わり算 <01>

- かけ算やわり算の素地をつくる。
- わり算の意味(等分除、包含除)と答えの求め方を理解する。
- 発展問題として避難所を想定し、家族で食べ物と同じ数ずつ分け合う計算を盛り込む。
- 問題をリアルに捉え、意欲的に課題に取り組むことができる。
- 平等に分ける公平さを学ぶ機会とする。

時刻と時間 <02>

- 時計の読み方や、時刻と時間の関係について理解する。
- 時刻と時間の読み方や、時刻と時間の関係について理解する。
- 津波到達や避難にかかる時間を考える。
- 時間経過を体感することなど、時間感覚とともに避難に際し切迫感を感じることができる。
- 時間の大きさに気付く。

単位量あたり <05>

- 単位量あたりの大きさの意味を理解し、単位量あたりによる数量の比較などをする。
- 「6畳の部屋に5人と、8畳の部屋に6人では、どちらが広いといえるか。」等を避難所に置きかえて考える。
- 教室にテーブル等でその広さを区切り体感することで、一人当たりの広さや畳一枚当たりの人数等を、計算だけでなく量感や自らの感覚等を伴って捉えることができる。

速さ <06>

- 速さの概念や、速さの単位を理解し、速さの読み方や、速さの単位を理解する。
- 津波の速さや到達までの時間などを問題に盛り込む。津波は陸上を時速300km/hで進む。
- 自分の走る速さと津波の速さを比較することで、スピード感を意識し、速さの学習に取り組むとともに必要性を感じる。

位置の表し方 <02, 03, 04>

- 地図等を用いて、2次元座標、3次元座標を使った位置の表し方を理解する。
- 実際の学校周辺の地図等を用いて、自分の家や周辺の施設などの位置を表す活動を行うことで、学習意欲の向上が期待できる。
- 避難施設などの位置関係や距離、高さなどを確認することができる。

重さ <07>

- 重さの単位を理解すると共に、持ち運び動作と合わせて体感する。
- 重さの感覚を養いながら、生活に根ざした量感を得ることができる。
- 〇kgの防災バッグを作るなどの活動へと発展させることもできる。

「必要感・具体性」
→より身近で主体的に

津波の速さ 0m/s
避難場所までの距離 Δm
津波到達時間 $\square\text{分}$

津波の速さ・避難場所までの距離・津波到達時間を自然と身につける

Ⅱ 令和3年度 鳴門市教育委員会の取組



令和3年度の取組重点項目

(1)防災教育の充実

- ①自分で考え、率先避難できる子どもの育成
- ②家庭において防災や災害避難についての話し合いの必要性
- ③地域の実態に即した教材の作成・活用
- ④計画に基づいたフェーズフリーの実践・浸透

(2) 自主防災会と連携した避難所運営支援計画につ

いての協議と教職員間の共通理解

新型コロナウイルス感染症対策に対応した避難所運営計画(ゾーニングの見直し)

(3) 自主防災会・地域と連携した避難訓練の実施

鳴門市教育委員会としての防災教育の取り組み方

家庭・自主防災会との連携等に重点を置く実践

- マニュアルの見直し・徹底
- 家庭・地域・自主防災会との連携

学校⇄自主防災会

フェーズフリーの浸透

- 実践の積み重ね
- 情報共有

防災への両面からのアプローチ

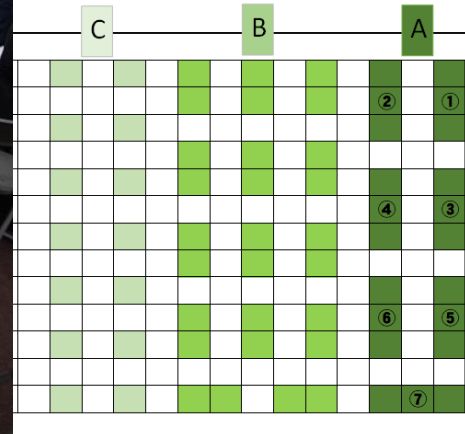
(2) 「自主防災会と連携した避難所運営支援計画の見直し」の取組

- ・ 避難所運営について(新型コロナウイルス感染症対策に対応した避難所ゾーニングの見直し、避難所開設時の運営方法、)
- ・ 自主防災会と協力した避難訓練実施方法の協議など



地域と協力した避難訓練

避難所区画割(案)



40m

- ※1人=1マス4㎡
- ※2人=2マス8㎡
- ※3人=2マス8㎡
- ※4人=3マス12㎡
- ※5人=3マス12㎡

<参考資料1>設置が必要なものG避難所運営支援計画内配置図に記載しておく(案) 令和3年6月

種	避難所において必要となる場所	設置上の効果等	備考
避難所	受付(待機待入リロ)	一帯懸断に設置する 受付台等に必要事項を記入し、市で用意を統一しておくことも必要	受付台等、筆記用具、紙類等
	避難所運営本部	一帯懸断に設置する 受付台等に必要事項を記入	ホワイトボード、紙類、テレビ、電源等必要
	避難所のルールを掲示する場所	避難所委員に用紙を渡し、転んでもらうことが前提	ホワイトボード、掲示板、ペン、用紙等必要
	看板類	看板類を掲示する	
社会教育	看板類と避難所の張り紙	看板類4枚×15m、避難所2m(スライダースクリーンでは1人あたり)	
	掲示板	誰もが目に触れる場所、受付	
	大きな看板張り	地域コミュニティごとに集まる	
	テレビ設置場所(情報収集)	運営本部、避難所用	

(3) 自主防災会・地域と連携した避難訓練



地域と協力した避難訓練

(1)「防災教育の充実」の取組 ④

フェーズフリーの学校教育への導入・実践

- 5月 「フェーズフリー・オンライン勉強会」の開催
- 6月 学校防災推進会議にて、毎月1日を「フェーズフリーの日」として位置づけ、各園・校でフェーズフリーに関する研修や教材研究を実施するように、依頼・決定
- 7月 第1回防災実務者部会 研修会 「学校防災・防災教育の現況と学校のフェーズフリー」
- 8月 各校のフェーズフリーに対する取り組みやアイデアを募集→市内で共有
- 9月 第1回フェーズフリーアワード ゴールド賞受賞
- 12月 第3回防災実務者部会 研修会 防災ワークショップ「未来日記」
各校のフェーズフリーに対する取り組みやアイデアを募集→市内で共有

令和3年度の取組重点項目に対応した取組

(1)「防災教育の充実」の取組 ④

●「フェーズフリー・オンライン勉強会」の開催 5月26日

講師 フェーズフリー協会代表理事 佐藤唯行氏

対象： 新しく防災担当になられた先生方・新しく鳴門市に赴任された先生

○フェーズフリーについての基本知識

●第1回防災実務者部会

講演 学校防災・防災教育の現況と学校のフェーズフリー

講師 鳴門教育大学准教授 谷村千絵氏

○防災教育の流れ

○フェーズフリーについて

・子どものフェーズフリー・教師のフェーズフリー



令和3年度の取組重点項目に対応した取組

(1) 「防災教育の充実」の取組 ④

●第3回防災実務者部会 □防災ワークショップ「未来日記」

12月7日実施 講師 フェーズフリー協会代表理事 佐藤唯行氏

目的:1・フェーズフリー教育の充実
(ガイドブックの内容やコンテンツの改善もふまえて)

2・学校のこれまでの防災教育の見直し、今後の見通し
を明確に持ちやすくすること

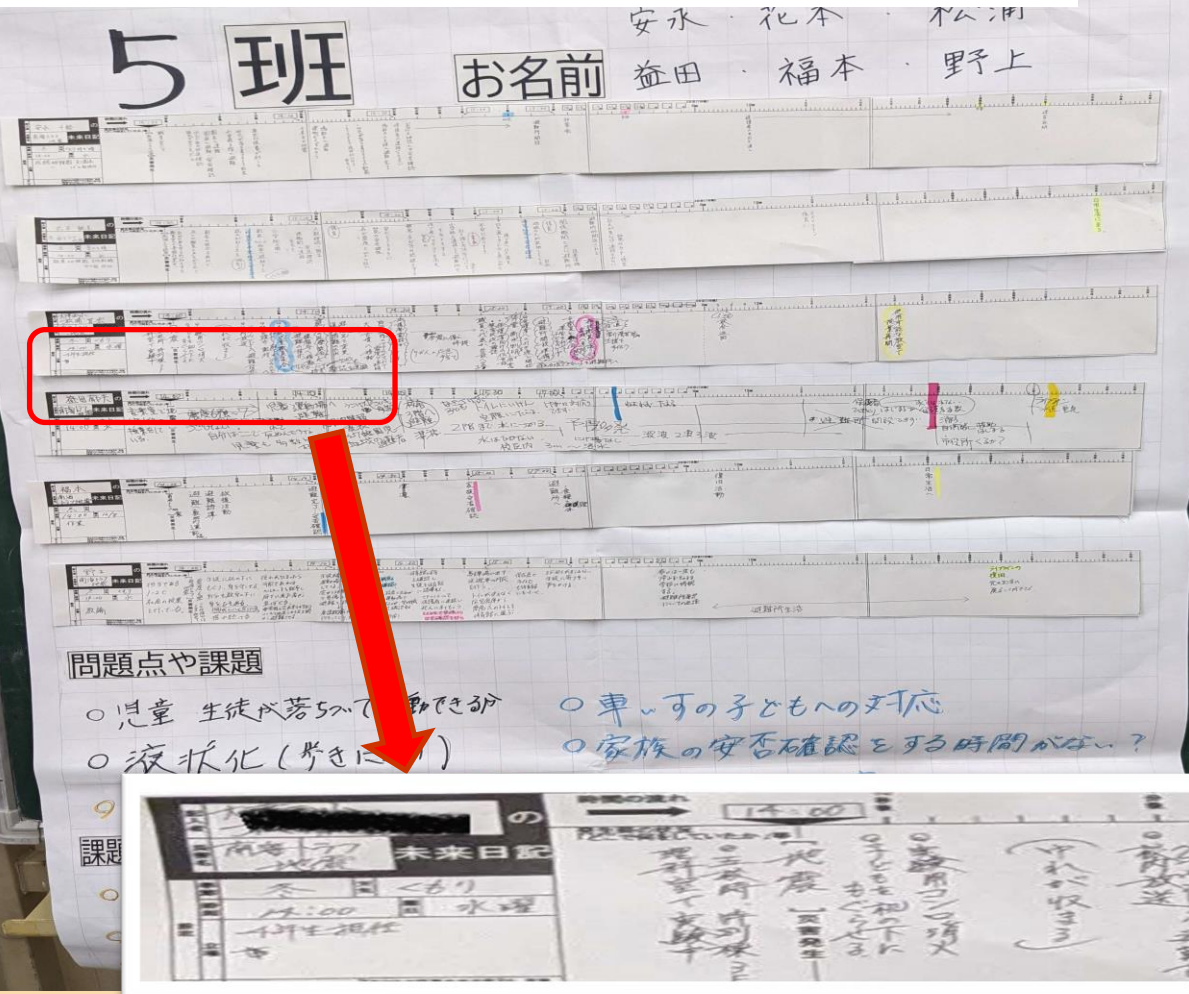
研修内容

- 地震・津波のイメージの共有(映像)
設定 12月8日、午後2時、震度7の巨大地震
- 各自で未来日記に記入
- 班内で、自分の未来日記の説明
- 班で、共感した点や課題の協議
- 班代表が報告



(1)「防災教育の充実」の取組 ④

ワークショップ「未来日記」



研修後の感想

災害が起きてからの行動をイメージした内容が班員それぞれまるで違い、本当に罹災したときにはおそらくほぼマニュアル通りにはいかないだろうという危機感を持ちました。だからこそ我々教職員は柔軟に対応する能力が求められるし、日常に防災の視点が根づくフェーズフリーの理念が生きてくると実感したひとときでした。(小学校教諭)

今回の未来日記を書くことで、今まで予測していなかった事まで自覚することができ、とても勉強になりました。また、校種や地域により課題も違い、画一的なマニュアルでは対応できないことがよく分かりました。来年度に向けて、危機管理マニュアルやアクションカードなどをしっかりと見直していこうと感じました。(中学校教諭)

(1) 「防災教育の充実」の取組 ④

令和3年度 鳴門市の各園・校におけるフェーズフリーの実践事例

子どものフェーズフリー

- ・生徒会専門委員会…屋外避難に必要な物を考える(中)
- ・家庭科で防災袋を作成(中)
- ・5年家庭科「整理整頓」…自分の身の回りの整理整頓をすることで学校・家庭での危険を察知(小)
- ・5年理科「台風と気象情報」…台風や警報について知る。子どもたちが天気予報を見る習慣を付ける(小)
- ・委員会…「計画ふれあい委員会」数目標にフェーズフリーの視点を入れて生活の向上を図っている(小)
- ・避難経路を散歩の際に歩いてみる(幼)
- ・ダンゴムシポーズに親しめ、ダンゴムシたいそうを遊びの中に取り入れる(幼)

教師のフェーズフリー

- ・毎年行う避難訓練の見る角度を変える(中)
- ・学校周辺の地理や建物を知る(中)
- ・常に教師はスマホを持っておく(中)
- ・上靴をはいているか、姿勢は正しいか、こまめに確認していく(小)
- ・掲示板…教室に掲示板を設置し予定や連絡を付箋にかき掲示。子どもはそれを見て行動。(小)
- ・出入り口にもものを置かない習慣(幼)
- ・日頃からポシエットを活用し、スマホ・緊急連絡票・消毒・ふえを持ち歩く(幼)
- ・日直の際に、園舎内外の巡視(幼)

これまでの取組の成果と課題

家庭や地域・自主防災会等に重点を置く取組とフェーズフリーを取組の両輪

家庭・地域・自主防災会との連携等に重点を置く実践

成果

- 自主防災会と、教職員が定期的に協議することで、学校と地域とのつながりができた。
- 家庭や地域で、防災について考える時間を増やすことができた。
- 担当者だけでなく、教職員が防災教育に主体的に取り組もうとする態度が増した。

課題

- 様々なパターンを想定した細かなマニュアル作りや避難訓練の実施
(登校時・在校時・下校時・休日・夜間・部活動など)
- 細部を想定したマニュアルや避難方法について、家庭や地域との情報共有や避難訓練の実施

フェーズフリー

成果

- 学校教育でフェーズフリーへの理解が進んだ。
- 教育課程にフェーズフリーの日を組み込むことで、学校現場の意識を高めることにつながった。

課題

- 学校教育で実践の積み重ね
- 教職員や子どもへの浸透

令和4年度に向けて

家庭や地域・自主防災会等に重点を置く取組とフェーズフリーを取組の両輪の発展

家庭・地域・自主防災会との連携等に重点を置く実践

- 様々なパターンを想定した避難訓練（登校時・在校時・下校時・休日・夜間・部活動など）
- 家庭や地域をまきこむ防災教育・避難訓練の充実



- コミュニティ・スクールを活用し、防災教育の一層の充実を図る（CS鳴門モデル）

フェーズフリーの浸透

- フェーズフリーの新しいアイデアの募集・共有・実践の積み重ね
- フェーズフリーガイドブックのコンテンツ見直し

日常から防災意識を自然に高める

防災へ両面からのアプローチ

ご静聴ありがとうございました。